

釧路市教育委員会 平成30年第16回11月定例会会議録

1 日時：平成30年11月22日（木）10時00分から11時20分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

高玉学校教育部長、川畑生涯学習部長、高松教育指導参事、
江縁学校教育部次長、藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、
小野施設計画主幹、土江田総括指導主事、仲谷学校教育課長、
米田学校給食課長、山賀北陽高等学校教頭、和田北陽高等学校事務長、
澤口生涯学習課長、松本オープンカレッジ推進主幹、永井美術館長、
工藤スポーツ課長、北澤国体推進室長、佐藤博物館長、
古賀動物園長、山田音別生涯学習課長

4 議事録署名人 山口委員、松尾委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

議案第53号 平成31年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について（追加）

報告事項

- （1）「第70回釧路市芸術祭」開催結果等について
- （2）「エンジン01 in 釧路」開催結果等について
- （3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】

議案第53号 平成31年度釧路北陽高等学校教科用図書の採択について（追加）

（和田北陽高等学校事務長）

平成31年度釧路北陽高等学校で使用する高等学校教科用図書については、本年7月に開催の定例教育委員会において採択されたが、この度、最終の選択科目調査において新たに需要が見込まれることになった教科用図書について追加採択したく、本案を提出するものである。

なお、議案の教科書、山川出版社の「現代の日本史 改訂版」については、今年度においても3学年の選択科目で使用しているものである。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された。

【公開案件】 報告事項

（1）「第70回釧路市藝術祭」開催結果等について

（澤口生涯学習課長）

第70回釧路市藝術祭が、コーチャンフォー釧路文化ホール、生涯学習センター、中央図書館ほか市内各施設を会場として、10月6日から11月4日まで開催された。

この藝術祭は、戦後間もない昭和24年の文化の日に、市民による市民のための総合文化展として始まり、市内において様々な分野の文化芸術活動を行っている方々が相互に交流するとともに市民の皆様が地元の文化芸術に触れる場として、釧路市文化団体連絡協議会が中心となり実行委員会を組織して毎年開催し、歴史ある一大イベントに成長している。本年は節目となる70回を迎え、開幕及び閉幕イベントではジャンルの違う各団体の合同による発表会や展示会を実施し、盛況のうちに終了している。

開幕イベント「くしろの文化」では900人、閉幕イベント「くしろの歌、唄、詩」では600人の観客を集め、70回を記念した4事業で約2,300人のご来場をいただき、釧路の文化力が発信されたところである。

舞台や展示などの催し物34件、マチナカギャラリースタンプラリーやエンジン01in釧路などの協賛事業5件を含め40団体の参加により43事業が実施され、今後は記念誌を発刊する予定となっている。開幕・閉幕イベント以外の事業については、現在集計作業をしているところだが、例年以上の盛り上がりを見せていることから、参加者総体として2万人を超えることが推察される。

教育委員会としても、この藝術祭が地域の文化芸術を振興する上で大変重要な事業であると考えており、本事業に対し今後も支援していきたいと考えているところである。

◎特に意見はなし。

【公開案件】 報告事項

(2) 「エンジン 0 1 in 釧路」 開催結果等について

(松本オープンカレッジ推進主幹)

□開催結果について、コーチャンフォー釧路文化ホールで開催された3つのシンポジウム・コンサートでは、定員4,200人のところ、4,100人の来場、公立大学で開催された講座のうち、一般講座では定員8,600人のところ、8,400人の来場となった。また、市内飲食店23店舗で開催された「夜楽(やがく)」では、3店舗が定員を若干割ったが、当日用意した800席がほぼ満席となり、総体では11月2日から4日までの3日間合計で、定員おおよそ14,700人のところ、14,000人が来場した。

そのほか、講師を歓迎するウェルカムパーティーを開催するなど、官民一体となっておもてなしや円滑な運営にあたり、講師のみならず、内外からの来場者にも釧路を強く印象づけられたものと実感しており、皆様のご尽力の賜物と重ねてお礼を申し上げる次第である。

◎この報告について各委員から次のとおり発言あり。

(小出委員)

最初はどうのような感じなのか見当がつかなかったが、東京から有名な方々が来るという事で期待していた中、開会式を見てシンポジウムがとても面白くてそれに続くコンサートも盛り上がり過ぎて期待以上に楽しめた。次の日の一般講座もとても楽しくて、他の人にも見てもらいたいという気持ちが高まっていたので、友達に声をかけて当日券を買ってもらって一緒に参加して、その友達にもすごく楽しんでもらえたので、行ってよかったと思った。最後の閉会式まで楽しめたので、一般市民の方もみんなそうだったのではないかと思う。行くと会場で知り合いに会ったりして、いろんな人が来ていたのを実感したし、これまで教育委員会での報告の中で、チケットの売り上げ状況を聞いて心配していたが、当日参加してみても賑わっていたし、皆さんが楽しんでいるのが会場でも伝わってきていたので本当に成功して終わったんだなと実感した。準備をしていた市教委や関係者の皆さんが大変だったのを感じながら3日間楽しませてもらった。

(松尾委員)

私もいろんな場所で開催前にエンジン 01 に行きますか?などいろんな人に声をかけていたが、全く知らない人もかなりいた。これだけ新聞に出ていたのに知らないということは、興味がないものは見ないのかなと思った。ただ、実際に行ってみると本当に楽しめたし、行った方が全員満足したと思う。エンジン 01 を知らなかった、そういうチャンスがなかったという方がいたのはすごく残念だが、要因としてチケットの販売の方法にも問題があったと

思う。高齢者の方はなかなかコーチャンフォーまで行けないとか、コンビニで買い方が分からない。コンビニの方もよくわかっていない人がいた。人数的にいうと本当に満足な人数の方に参加していただいたので文句はないと思うし、次回がないのでこれを踏まえてというわけにはいかないが、すごくもったいないと思った。実際に行った人たちは自分からチケットを買いに行って会場に行って並んでというレベルの方々がたくさんいたというのは、釧路の人間として鼻が高いと思った。夜楽もすごく楽しませてもらった。講座とかいろいろなものに参加して思ったのは、講師の皆さんがあか抜けていて、何から何まですごく上手だった。こちらが心配しなくてもあれだけ講師の方々にやっていただけるというのは、すごく助かったのではないかと思う。釧路の人間としては本当によかったと思うし、釧路の人間まんざらじゃないとすごく自信がついた。

(松本オープンカレッジ推進主幹)

チケットの販売方法について、コーチャンフォー釧路店のみが直接指をさしながら説明を受けて買えるというのが唯一だった。あとは、セブンイレブンで端末での購入については東京側にも申し入れたが、買いつらいというのはもちろんだが表示のされ方について、タイトルが出なかったというところが一番よくなかった。次期開催地以降の方々のためにも、改善してほしいという事を伝えている。

(松尾委員)

当日券も長蛇の列で、一つの PC で一人で行っていて、空いている講座を探すのに一人ひとりの時間がすごくかかってさばけない状況だった。自分たちも当日券を買うのに並んでいたが、あきらめてしまった。そういうところも何台か PC があればよかったと思った。

(岡部教育長)

現在地域別の購入状況を分析しており、最南端は九州だった。

(山口委員)

誰かを追っかけているのではなくて、毎年エンジン 01 を追っかけて参加しているという全国にはそういうファンの方もいると思う。オープニングシンポジウムの入場のために並んでいた時、前に並んでいた女性 2 人は神奈川から来ていて、去年の大分でも参加していて来年もぜひ行きたいと言っていた。毎年追っかけているんですかと聞くと、こんなに素晴らしい内容ですからと言っていた。

(岡部教育長)

エンジン 01 が今回北海道で初めてという事もあったし、エンジン 01 の知名度という部分でも、それはどういうものなのかというところから始まっているので、今回のようなチケットの売れ行きになったのではないかと思う。

例えば、「国体」と言ったらみんなイメージがわくが、「エンジン 01」と言ったらそれは何だということから説明していかないと、新聞広告をいくら見ても中まで入っていきそうとしない特にお年寄り等は、そういう反応だったのではないかと思うので、ぜひ東京の事務局にはそういった地方の声、先ほどの松尾委員の意見も含めて伝えてほしいと思う。

(種村委員)

自分は夜楽しか出ることができなかったが、7,000円の価値はあったと思う。有名人と間近に接して、その人となりを感じて非常に和やかな雰囲気ですることができて、とても楽しかった。

(山口委員)

感想は結果オーライで本当によかったと思う。準備された担当者の方はご苦労されたと思う。直近、券が売れないという事でいろんな方に声をかけて券を買ってもらったが、その参加してくれた人たちが、参加してよかった、中身が素晴らしかったという感想をもって終わったのがよかったと思う。

また、情報発信力のある講師陣が釧路に対するイメージだとかすごく盛りあがった、釧路よかったという情報を持って、帰ってもらって他のところで釧路の感想を発信してもらうのが何よりも収穫が大きかったと思う。唯一課題が残るとすれば、実は直前になって大学の同期にチケットを買ったか聞いたところ、何それという反応だった。新聞記事は読んだけど自分たちが参加していいのか、どのような中身なのかという理解しかなかった。そこにどういった事前のPRができるのかが今後の課題だと思う。

話は変わるが、学校を開くという事で例えば今までは学校がこんなことをやっていますというようなことをあんまり外に説明する術がなかったが、ホームページを立ち上げる、学校便りで学校の様子を回覧板等で回覧してもらうなど、学校側からの説明責任は十分果たされているという認識だが、地域の方は学校何やっているんだろう、学校の説明がよく届いてこない、というギャップが大きい。例えば市役所でも市民に理解してもらいたいことがあると思う。広報でも出す、ホームページでも立ち上げている、でもそれが釧路市民に本当に浸透しているのか、理解が深まっているのかというと、やっぱりギャップはあると思う。学校の説明責任も市役所の説明責任も何か指摘されたときに、アリバイ作りというか、ちゃんとやっていますという説明のための資料提示という部分はあると思う。これからエンジン01だけに限らず、広く市民に絶対理解してもらいたいというものもあると思うが、その時の広報活動等の術も今後工夫していく必要があるということ、今回のエンジン01のPRの仕方を見て少し感じた。

【公開事項】 報告事項

(3) 学校の現状について

(高松教育指導参事)

研究指定校の公開研究会をはじめ、様々な教育関係の行事に参加いただき、感謝している。「信頼」に基づいて、学校の現状について報告する。

初めに、教育委員会と校長会役員との意見交換会について報告する。

10月18日(木)、生涯学習センターにおいて、小中学校校長会と教育委員会とが学校現場における教育課題に対する認識を深め合い、課題解決に向けた今後の具体的な取組と対応の在り方などを検討・協議することを目的とした意見交換会が実施された。

森会長以下9名の役員と教育長以下7名の部課長が出席し、「CS導入の方向性、及びCSや小中一貫教育を進めるにあたっての環境整備」をはじめ、校長先生方からも忌憚のない意見や要望を多数いただくことができた。意見交換会後の懇親交流会も含めて、校長会との連携が深めることができた貴重な機会となった。

次に平成30年度「釧新教育活動賞」について報告する。

報道等でも既にご承知かと思うが、今年度の釧新教育活動賞に景雲中学校が選ばれ、10月27日に贈呈式が行われた。

景雲中学校は、基礎・基本の習得に向けた「KEIUN」タイムと思考力・表現力の育成に向けた「4つの相のある展開」を位置づけた授業づくりを通して、自己肯定感を高める授業の在り方について研究を進めている。

また、文武両道の精神を校風としており、体育・文化の部活動においても、全道大会等で優秀な成績を収めていることや地域合同避難訓練などの地域とともにある学校づくりが高く評価され、今回の受賞となった。

次に釧路市いじめ防止対策委員会について報告する。

10月24日に釧路市いじめ防止対策委員会を開催し、今年度半年余りのいじめの問題への対応状況報告と個別のケース検討を行った。「いじめは許されない」との認識を持ちきれない児童生徒に対する指導を継続的に行う必要性が指摘された。

また、結果として転校を伴った事案では、被害者の本来の居場所を奪ってしまったという重大性について、保護者ともども重く受け止めさせる指導の重要性が確認された。先日の校長会でも、直近のいじめ調査が終わったところであり、改めて組織的、丁寧な対応をお願いしたところである。

最後に釧路市特別支援学級・学校教育展について報告する。

特別支援学級の児童生徒が作り上げた絵画や習字などの作品展が本日22日（木）より釧路市生涯学習センター1階市民展示ホールで開催される。

どの作品も子どもたちの懸命な思いと、保護者をはじめ、子どもたちを支える方々の思いがあふれる作品となっている。委員の皆様においても、ご都合がございましたらご鑑賞いただきたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

釧路市特別支援学級・学校教育展について、先月の教育委員会の時に発表会は今年で終わりという事だったが、教育展については今後も継続的に行われるのか。

また、釧路市いじめ防止対策委員会について、例えば子どもがいじめを原因とする理由で自殺してしまうなど全国的に問題になっているときに、この委員会が機能してこれはいじめがあったという認定をしたりする組織だと思うが、釧路市でそういう重大事案がこれまでも発生していないし、今後も実質的にこの委員会が機能しないような事前の取組で未然に防げ

るようにしてもらいたいと思う。

さらに、小中学校校長会と教育委員会との意見交換会について、教育委員会と学校現場の双方の意見交換会の場としては非常に有効だと思う。9名の校長会の役員と教育委員会の7名という規模を大きくしないまでも、例えば校長会の役員の3役だとか会長、事務局長、教育長などは日常的に、必要に応じてタイムリーに意思疎通が図れるような連携が今後必要だと思う。そういう意味ではこういう機会があったのはすごくいいことだったと思う。

校長会と教育委員会との連携はこれからも大切だと思うが、景雲中学校が釧新教育活動賞を受けたその理由の一つに、日常的な実践「KEIUN」タイムを中心とする取組が評価されたということだと思う。先日行われた公開研に私たちも参加させてもらって、先生方も頑張っているし、先生方の横の連携、組織的な取組も景雲中学校では定着しているんだな、それを受けて子どもたちも一生懸命頑張っているんだなという感想を持った。前回の教育委員会の時に小中高の縦の連携と同種校間の横の連携もすごく大切なのではないかという話をさせてもらったが、例えば景雲中学校の子どもたちに確かな学力を身に着けさせるために、景雲ではこんな取組をやっています、そしてこういう成果が出ています、という情報を同じ教科を担当している他の中学校の先生方がその授業を見て、その後の検討会に参加することによって自分の日常の授業のあり方を振り返る絶好の機会になり得たはずなのに、他の中学校の参加する人に差があった。校長、教頭先生は参加しているけど一般の先生は参加していないところもあった。校長会と市教委の連携もさることながら、校長同士の横の連携ももっと実質的な部分で図ってもらいたいと思う。はっきり言って校長、教頭先生が来なくても一般の先生方が来てもらった方が、ずっと収穫はあったような気がする。

(高松教育指導参事)

公開研究会もそれぞれセンター講座の一つとして位置付けて教職員の周知については年度当初からお願いをしている。また、直近の校長会でも景雲中学校についてはそれなりの成果を上げているところで、特に数学の授業が公開されるという事で、各校数学の教諭を1名ずつ参加してほしいということも前段の校長会でお願いした。校内研修と校外の研修機会は教員の資質向上を図るうえで大変貴重な機会なので、積極的に管理職から声をかけるようなことは引き続き教育委員会として校長会に呼びかけていきたいと思う。

また、特別支援学級の教育展については今後も引き続き行われる。

(松尾委員)

公開研について、参加者の名簿を見せてもらった時に、同じ学校の先生がたくさんいる場合もあれば、全然いない場合もある。それは校長先生の裁量で決めているのか。

(高松教育指導参事)

おそらく中学校の公開研は貴重なので、それに合わせて事前に時間割を調整しながら条件を整えてくれる学校と、残念ながら整えきれなくて参加できない学校もあると思う。

(松尾委員)

自分たちは授業を見ても比較ができないので、比較したとしてもどこがいいのかわからない。子どもとのやり取りが上手だとか、わかりやすそうだとかそういう風にしかわからない

が、実際に自分たちも教えている先生であればもっとわかると思う。そういう意味でたくさん先生方に見てもらいたいと思った。

(小出委員)

英語の授業がすごく楽しそうで、私たちが受けた授業というのはただ受けるだけで聞いてみんなで教科書を読むくらいだったが、みんな立って自分で発言するというような授業を行っていて、今は昔と違うんだなという事を感じた。これが全部の学校でやってくれたらいいなというように保護者として見ていて感じた。

(種村委員)

公開研について、小学校の特別支援学級の学級を見させてもらった時に、はきはきと答えていて、どうして特別支援なのか、どこに問題があるのかと不思議に思った。普通の学級に入っても十分いけそうな児童だと思ったがどうだろうか。

(高松教育指導参事)

子どもの特性によって、集団場面緘黙だとか集団に入ると力を発揮できない等がある。教室も個性が強ければ、衝立を作ってその子の固有の空間を作るなど、色々な特性があるため、普通に見えていたとしても教室に行くのが難しいこともある。今は交流学习が進んでいるので、一緒にできる教科については一緒に受けるという配慮もしているが、学校の置かれている状況や子どものコンディションも含めながら別な空間で学習しているという実態である。

(種村委員)

評価はどうなっているのか。普通学級の子と同じなのか。

(高松教育指導参事)

交流学习に行く場合は、普通の子どもたちと同じ学習を進めている。知的学級だと教科書そのものが違うので、情緒学級については一緒にやれるものは一緒にやるが、最低1～8時間は自立活動のための時間で個別に対応しなければならないルールもある。一緒に教育課程を共にする活動をとっている教科については、一緒に基準で評価していると思う。